

## Norrie 病の呼称に関する告知（推奨）

Norrie 病は先天性の網膜剥離に加えて、難聴や発達の遅れを生じやすい遺伝性の病気です。1927年に Gordon Norrie が初めて報告し、1961年に Warburg によって疾患概念がまとめられました。日本では1979年に鹿児島大学眼科の藤田医師と大庭医師によって「ノリエ病」として初めて報告されました。これまで日本人の患者さんについて日本語で報告されている症例は調べたかぎり8家系ですが、いずれも藤田らの報告を踏襲して「ノリエ病」の病名が用いられています。今後 Norrie 病は眼科だけでなく耳鼻科や小児科領域での関心も高まるものと考えます。Norrie 病は海外では200症例を超える報告がありますが、日本での報告はまだ少なく「ノリエ病」の呼び方は他科領域ではあまり普及したものではないと考えます。このような状況を踏まえて、日本小児眼科学会では日本語で表記・呼称する場合には、「ノリエ病」をより欧米言語での発音に近い「ノリー病」とすることを推奨いたします。つきましては、過去の報告との整合性を維持するために、しばらくの間「ノリー病（旧：ノリエ病）」と表記するとともに、眼科関連の学会にこの点を働きかけることといたします。

### 参考文献

- 1) Norrie G. Causes of blindness in children. Acta Ophthalmol 1927;5:357-386
- 2) Warburg M. Norrie's disease. A new hereditary bilateral pseudotumour of the retina. Acta Ophthalmol Scand 1961; 39: 757-772.
- 3) 藤田晋吾, 大庭紀雄. ノリエ病. 臨床眼科 1979;33:495-496